

グリニド系糖尿病薬フォーミュラ Ver.1.1

2026年8月10日改定

	推奨		オプション	
一般名	レパグリニド		ミチグリニド	
代表的な製品名	GE:レパグリニド	シュアポスト(2024年5月で販売中止)	GE:ミチグリニド	グルファスト(先発)
標準的1日薬価	19. ⁸ 円(0.25mg×3錠)	-	21~37. ⁵ 円(10mg×3錠)	50. ⁷ 円(10mg×3錠)
効能・効果	2型糖尿病		2型糖尿病	
用法・用量	【開始】1回0.25mgを1日3回 毎食直前(10分以内) 【維持】1回0.25~0.5mgを1日3回、1回1mgまで増量可		1回10mgを1日3回 毎食直前(5分以内)	
半減期	46分(0.25mg 食直前)		1.2時間(錠:10mg 食直前) 1.3時間(OD錠:10mg 食直前)	
特徴など	・世界100か国以上(2014年6月時点)で承認されている ・国内の糖尿病診療ガイドラインではナテグリニドを対照としたランダム化比較試験でHbA1cを有意に改善したと記載されている。1) ・主に肝臓で代謝されるため、重度の肝機能障害のある患者では低血糖を起こす恐れがある。 ・HbA1cの低下効果が高いが、低血糖の頻度もやや高いとの報告がある。4)		・中国や韓国などの世界数か国での承認実績が無く、欧米では販売されていない。 ・ナテグリニドを対照としたランダム化比較試験でHbA1c低下効果に有意差が示されなかった。2) 3) ・グリニド系糖尿病薬の中で唯一の口腔内崩壊錠が販売されている。	

【解説】

推奨薬の順位付けは有効性・安全性・経済性を踏まえて決定した。
ナテグリニドは、国内で最初に導入されたグリニド系糖尿病薬であり使用経験は豊富である。また他剤との比較試験における標準薬となっている。
しかし透析を必要とするような重篤な腎機能患者のある患者には禁忌(他剤では慎重投与)となっており実臨床において使いにくいとため推奨薬リストから外した。

【参考ガイドライン・文献】

- 1)日本糖尿病学会:糖尿病診療ガイドライン2024
- 2)L.Li,et al. Efficacy and safety of mitiglinide versus nateglinide in newly diagnose patients with type 2 diabetes mellitus : a randomized double blind trial. Diabetes Obes Metab 2012 Feb;14(2) : 187-9 PMID : 21895920
- 3)X.Gao,et al. Multicentre, double-blind , randomized study of mitiglinide compared with nateglinide in type 2 diabetes mellitus patients in China. J Int Med Res. May-Jun 2009;37(3):812-21. PMID : 19589264
- 4)Ryuzo Kawamori, et al. Efficacy and safety of repaglinide vs nateglinide for treatment of Japanese patients with type 2 diabetes mellitus. J Diabetes Investig. 2012 Jun 6;3(3):302-8 PMID : 24843581